SHIMANE
University

人とともに　地域とともに

国立大学法人

島根大学

島根大学同窓会連合会

SUAA

Shimane University Alumni Association

島根大学同窓会連合会 機関誌

March.2011　Vol.5

島根大学同窓会連合会事務室

〒690-8504 松江市西川津町1060　島根大学附属図書館１Ｆ
TEL.0852-32-9725　E-mail:suaa@jn.shimane-u.ac.jp

SUAA

同窓会連合会

島根大学同窓会連合会が設立されてから満5年，一つの節目を越えました。

この間，島根大学と共催で開催する連合会最大の行事「ホームカミングデー」や機関誌の発行，ホームページの運用によるPR，島根大学支援基金の募金への取組みなどの活動を通じ連合会活動の基盤が固まりつつあると感じているところであります。

これもひとえに，島根大学及び各学部等の同窓会のご協力，そして同窓会員の皆様のご理解とご支援の賜であり，深く感謝しております。

国立大学は，平成16年4月に法人化され，自律的な環境の下で大学をより活性化し，優れた教育や特色ある研究の推進，社会貢献活動の充実などに積極的に取り組み，より個性豊かな魅力ある大学を目指して改革が進められております。

母校島根大学に於いても，「学生満足度」，「地域貢献」をキーワードとして「地方国立大学ナンバーワン」を目指して改革が進められており，これからが真価を発揮するための重要な時期であります。

同窓会連合会といたしましては，このような状況を踏まえ，同窓会の絆を礎に各学部等の同窓会と一体となって母校島根大学の発展と存在価値の向上のために貢献して参りたいと考えております。

会員の皆様の同窓会活動へのご理解とご協力，積極的なご参加をお願い致します。

島根大学同窓会連合会会長　江口博晴

活動状況

第4回ホームカミングデーを開催

松江キャンパスでは，10月9日（土）に大学祭（淞風祭）に併せ，平成22年度ホームカミングデー歓迎式典及び本学出身で歌手の浜田真理子さんによる特別講演会を開催しました。当日は，約200名の同窓生，一般の方々を迎え，本学出身のソプラノ歌手狩野麻実さんの演奏会を皮切りに山本学長，江口同窓会連合会長の挨拶，そして全国で広く音楽活動をされている浜田真理子さんによるお話がありました。

浜田真理子さんによる特別講演会

在学中の想い出や現在取り組まれている活動など，浜田さんの感性溢れる講演に聴き入り，最後には歌の披露もありました。

昨年度に綺麗に改修された懐かしい旧100番教室での式典，そして卒業生の現在の華やかな活躍ぶりに触れ，懐かしい想いと共に母校への愛着を新たにした一時でした。

出雲キャンパスでは，10月17日（日）大学祭（くえびこ祭）に併せ，平成22年度ホームカミングデー講演会（出雲キャンパス）を開催し，市民を含む約40名の参加がありました。

狩野麻実さんの演奏会

山本学長，佐藤利昭医学科同窓会会長の挨拶に続き，紫藤医学部長から「島根大学医学部の現状について」，小林病院長から「附属病院の将来構想について」，内田看護学科長から「看護学科の将来構想について」と題してそれぞれ講演があり，参加者は医学部の現状や今後の取組みについて熱心に耳を傾けていました。

講演会の後，参加者はクリニカルスキルアップセンター，病院病理部，院内うさぎ保育所の施設見学を行い，高機能患者シミュレータを用いた実践教育や病理バーチャルスライドシステムを使った組織教育，教職員の働きやすい職場環境作りの一環として設置した院内保育所等の説明を受けるなど有意義な一日でした。

平成23年度活動予定

- ●役員会
  平成24年3月
- ●第5回ホームカミングデー
  〔松江キャンパス〕10月8日（土）
  ※大学祭は10月7日（金）～10日（月）
  〔出雲キャンパス〕10月15日（土）
  ※大学祭は10月15日（土）・16日（日）
- ●機関誌第6号の発行
  平成24年3月
- ●学部同窓会への支援
  ホームページの構築及び運用管理など
- ●卒業生による「先輩授業」の実施
- ●生涯メールアドレスサービスの実施

第5回ホームカミングデーを開催します。

松江キャパスは10月8日（土），出雲キャンパスは10月15日（土）に開催します。詳細な内容は，今後決定していくこととしていますが，例年，歓迎式典，特別講演会，演奏会，各学部同窓会の企画，キャンパスツアー，大学グッズ等の販売などを行っています。
また，当日は松江キャンパスにおいて大学祭（10月7日～10日），出雲キャンパス（10月15日・16日）も実施されていますので，ぜひお越しいただきお楽しみください。

同窓会HP／http://www.suaa.shimane-u.ac.jp/

法文学部同窓会

活動状況

定例となった第4回ホームカミングデー（平成22年10月9日（土）開催）に併せ，法文学部同窓会では，法文学部就職委員会・キャリアセンターの協力も得て「就職をテーマに現役学生とOBの語る会」を実施しました。その後の同窓会交流会にも現役学生も参加して大いに盛り上がりました。

同窓生からの投稿，同窓会の活動状況を伝える同窓会年報「淞春」第5号も発刊しました。

平成22年の主な活動状況は以下のとおりです。

◇**法文学部同窓会役員会**
平成22年4月24日（土）　於：島根大学

◇**同窓会年報「淞春」年報第5号発刊**
平成22年8月

◇**第4回島根大学ホームカミングデー**
「就職をテーマに現役学生とOBの語る会」
平成22年10月9日（土）　於：島根大学

◇**法文学部同窓会交流会**
平成22年10月9日（土）　於：レインボープラザホテル

法文学部同窓会　平成22年10月9日

平成23年度活動予定

- ●法文学部同窓会役員会
  平成23年4月23日（土）於:島根大学
- ●法文学部同窓会名簿（2011年版）発行
  平成23年春
- ●同窓会年報「淞春」年報第6号発刊
  平成23年夏
- ●第5回島根大学ホームカミングデー
  「就職をテーマに現役学生とOBの語る会」
  法文学部同窓会交流会
  平成23年10月8日（土）　於：島根大学他
- ●関西同窓会（6月11日予定）
  在京同窓会（7月2日予定）

同窓会HP
http://www.suaa.shimane-u.ac.jp/riko/index.html

同窓生からの近況報告

曽田篤一郎文庫ギャラリーに応援を！

宍道　勉
文理14期（1966年卒）

一昨年より松江市の「曽田篤一郎文庫ギャラリー（http://sotalibrary.will3in.jp/）」の応援に精を出しております。

そもそもの関わりは「私設図書館が存亡の危機にあるので，知恵を貸して欲しい」と言う同期の錦織由紀子（旧姓大島）さんからの起っての願いであり，否も応もありません。そこで荒川先生（島根大学保健管理センター）主催のMLに「迷文」で訴えたところ，様々な方面の賛同を得て「応援団」が結成されました。卒業後45年にもなるのに松江市（島根県）で働いたことがない私ですが，図書館好きが縁となってようやく「松江市民」の仲間入りができたわけです。松江が誇る文化として，他には見られないような図書館を目指しています。皆様もどうかいらして下さい。そしてわれわれに声援を送って下さい。

「明るい農村かわもと」で地域活動、島根県川本町で暮らしています。

福代　美保
法文10期（1991年卒）

平成19年から県職員として川本町に派遣されて，以来，四年が過ぎようとしています。田舎らしい田舎で暮らすのは初めてのことで，山や田園の季節の移り変わりの美しさ，直向きに暮らす人々の真摯な姿に感動し，仕事を離れても川本で暮らすことにしました。

川本町には，健康食品「えごま」，羊，森林資源ほかに戦国時代に建立された見事な寺，古い町並み等の資源，そして手に技術を持つ器用な退職者が人的資源として豊富です。人々の夢の実現の後押をしながら日々生きている実感の中で活き活きと暮らせる田舎暮らしを楽しんでいます。

教育学部同窓会

活動状況

◇**6月12日＝役員総会。**終了後,英語教育コースの学生によるプレゼンテーション「エイケンジャーと英語であそぼう」(「100時間体験学修」活動)がありました。

◇**6月12日＝同窓会広報紙「Leaf@同窓会」№2発行。**新しく就任された伊藤教育学部長の挨拶ほかを掲載しました。

◇**7月7日＝学部生(同窓会準会員)対象の「教師力パワーアップセミナー」**に模擬面接官として在松同窓会員が協力しました。

◇**10月9日＝第4回ホームカミングデー。**島根大学ホールで開かれた全体会(別項参照)のあと教育学部多目的ホールに移動して,学部と同窓会共同企画によるラウンドテーブル※「教育学部のいま・教育のいま」を行いました。学部で取り組まれている「環境寺子屋」の紹介を受け,最近の「理科離れ」に立ち向かう教員養成と学校現場の問題を語り合いました。

◇**1月18日＝「同窓会誌」第62号発刊。**今号の注目記事は,アンケートと寄稿で構成した特集「多忙感のなかで教員は・・・」です。今日の学校現場が抱えている大きな問題の一つとして「多忙感」の問題を取り上げ,実態と対応について問題提起をしました。

※ラウンドテーブル…楽しい理科実験の体験

平成23年度活動予定

●6月　役員総会
　　学生・教員によるプレゼンテーション
●7月　教師力パワーアップセミナー協力
●10月　ホームカミングデー
　　ラウンドテーブル
　　学生・教員・卒業生の交流会
●1月　同窓会誌第63号発行
●3月　理事会
　　各支部,卒業期,研究室(専攻)等の同窓会を開かれる折には規定により祝い金を送っています。ご連絡下さい。

同窓会HP
http://www.suaa.shimane-u.ac.jp/edu/index.html

同窓生からの近況報告

国境・世代・ジャンルを越えて〜唄は地球の共通語

大岩　誓子(旧姓「西谷」)
特別音楽課程・声楽科(1974年卒)

昨秋,東京支部諸先輩方の輝かしい笑顔と出会う機会に恵まれました。勇壮なカナディアンロッキーを背に・・・オーロラ踊る北欧のチャペル・・・莫高窟の往時語る大仏殿・・・各所で日本の心を歌い伝える日々ですが,この日共に唄い上げた♪故郷♪は格別でした。

学生時代に看取ったピンク御殿(音研の愛称)は,復帰前の沖縄含む日本中のお国言葉が飛び交い異文化の華咲き乱れる舎でした。その名残りか私の日常は異文化コラボに満ちています。0才児ママの唄遊び・100才家族の長寿コンサート・海外での大学講演や招待演奏等。回族自治区で寧夏・島根大学研究所に遭遇したのも昨春の事。3度の学長懇談(都内&島大)・医大訪問。

空の玄関が"縁結空港"となり,島根県の「遣島使」としての使命も充実した年,島大とのご縁も一層膨らんだ1年でした。

(声楽家・敦煌市教育顧問・河南職技大学名誉教授・玄奘三蔵故里文化観光顧問・河南省対外友好協会特別理事・北京幼稚園顧問 他　埼玉県在住)

「やっとスタートライン」

上口　一郎
(平成16年卒)

私は平成16年3月,教育学部社会科教育専修を卒業し,現在,邑南町立羽須美中学校に勤務しています。私の母校でもある羽須美中学校は,全校生徒355名と人数は少ないですが,部活動や学校行事がたいへん盛んな学校です。講師時代も含めて教員生活8年目を迎えようとしています。先輩方や保護者の方,また地域の方,そして子どもたちから多くのことを学ぶ中で,最近「やっと教員としてのスタートラインに立てたかな?」と感じことができるようになりました。現在,特別支援学級担任と人権・同和教育主任を担当していますが,どちらも初めての経験で,苦労することも多いです。しかし,苦労の分だけ自分の資質や能力を伸ばすよい機会ですし,この2つの担当は自分にとって欠けていた部分をダイレクトに学ぶことができているように感じています。

(邑南町立羽須美中学校・教諭)

医学部医学科同窓会

活動状況

本同窓会は本部・中四国・東日本・関西・九州の5支部体制を採っており、輪番で支部総会を開催しています。平成22年は九州支部の番で内田一郎会長(1期)の下、8月21日別府のホテル白菊で行われました。郷里である別府にお住まいの北尾学島根大学名誉教授(前産婦人科学教授)の御臨席もいただき20名を超える同窓生が集い、夜遅くまで旧交を温めることが出来ました。

例年実施して来た大学祭での同窓会企画パネルディスカッションは終了とし、平成22年度からは、大学と共催で『ホームカミングデー』を大学祭開催時期に合わせて実施することとなりました。企画立案が遅れたため、中国地方在住の同窓生のみに案内を送ることにしましたが、殆ど参加者が集まらなかったのはとても残念でした。平成23年度の『ホームカミングデー』は10月15日(土)に開催予定です。この日に合わせて、同窓会総会と懇親会も開催いたしますので、全国各地からお集まりいただくことを祈念しております。

平成22年の医学研究・医学教育奨励賞は以下の3名の方々に決定し、それぞれ20万円の助成を行いました。

◎島根大学医学部眼科学准教授　児玉達夫(4期)
「外眼部腫瘍の遺伝子検索による内臓悪性腫瘍のスクリーニング」

◎島根大学医学部脳神経外科准教授　永井秀政(9期)
「脳粘弾性測定による脳の硬さの評価に関する包括的研究」

◎福島県立医科大学衛生学・予防医学講師　神田秀幸(16期)
「特定健診未受診者の特性と受診率向上の方策に関する疫学研究」

平成23年度活動予定

平成23年4月／同窓会名簿発行
　　10月／ホームカミングデー(10月15日)
　　10月／同窓会総会(10月15日)
　　11月／医学研究・医学研究奨励賞/地域医療貢献賞公募
平成24年3月／同窓会報発行
　　年次総会
　　医学研究・医学研究奨励賞/地域医療貢献賞授与式

同窓会HP
http://www.med.shimane-u.ac.jp/medicine/alumni.html

同窓生からの近況報告

近況報告

谷浦 博之
島根医科大学医学科2期(1983年卒)

同窓生の皆さまはじめまして。現在,島根県の最西南部の鹿足郡吉賀町にある六日市病院で病院長をしています谷浦と申します。生まれは愛媛県ですが,すでに出身県の倍以上の期間,島根県に住んでおりほとんど島根県人です。地域医療崩壊といわれる昨今,今ある病院機能を維持するために現場で悪戦苦闘しております。さて,地域の医療を存続させていくために必要なのは,医師だけではありません。看護師,薬剤師,栄養士,理学療法士などなどの医療専門職の力に加えて,病院組織や地域の行政を健全に保つために欠かせないのは,地域に愛情をもった方々の協力だと改めて認識してまいりました。ぜひ同窓の皆さまのお力添えをよろしくお願いいたします。

(六日市病院病院長)

母校の縁

福島 哲仁
島根医科大学医学科3期(1984年卒)

2002年,福島県立医科大学に赴任しました。2010年から医療人育成・支援センター長を兼務することになった関係で,9月16,17日に母校で開催された「国内医科大学視察と討論の会」に出席しました。懐かしさもあり有意義な時間を過ごしました。10月22日に島根大学医学部整形外科学講座の内尾祐司教授(5期)が,12月14日には国立がん研究センターの西本寛先生(7期)が講演に福島に来られ,島根大学医学部と福島医大の不思議な縁を感じました。私共の講座には,他に16期の神田秀幸先生,23期の各務竹康先生が所属しており,少し前には8期の黄田光博先生も一緒に仕事をしておりました。みちのくの地に島根大学医学部卒業生がこれだけ結集しているのは珍しいことです。母校は随分遠くなってしまいましたが,母校の縁は生涯続く,そんなことを感じながら日々過ごしております。

(福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座 教授)

医学部看護学科同窓会

活動状況

看護学科同窓会さくら会では、ホームカミングデー企画をくえびこ祭に合わせ開催しました。「学びやで看護を語ろう」と題し1期生から8期生、大学院修了生までが集まり、看護について熱く語り合う場となりました。後輩は先輩からの助言を聞き、先輩は後輩からのフレッシュな意見を聞き、互いに影響を与え合うといった充実した会となり、同窓生で語り合う場の大切さを実感した1日となりました。

また、島根県の看護職員確保における調査に協力するなど、県内の看護職確保に対する活動も行っています。
引き続き来年度も島根県内、島根大学医学部附属病院の看護職確保の広報支援、差し迫りました新病棟増改築に合わせ「学内の緑化計画、散歩道つくり」の活動を行っていきたいと考えています。

平成23年度活動予定

- ●平成23年5月　役員総会
- ●平成23年6月～8月　各支部総会
- ●平成23年10月　ホームカミングデー
- ●卒業生、修了生を対象とした看護を語る会

同窓会HP
http://www.shimane-u-kango.jp/39.html

同窓生からの近況報告

近況報告

村山 知佳（旧姓:矢田貝）
島根医科大学看護学科1期生・大学院修士課程修了

卒業後は大学院に進学し,糖尿病をもつ子どもと母親の満足感に焦点を当てた研究を行いました。その後,国家公務員共済組合連合会虎の門病院に就職し,大学院時代に学んだ慢性疾患の方々が多く入院されている病棟に配属され,慢性疾患を持つ患者さんへの看護に5年間携わりました。現在は社会福祉法人三井記念病院の外来化学療法センターに勤務しています。患者さんが今までと変わらない生活を送りながら治療を継続できるように,それぞれの患者さんの生活に沿った看護を提供することの難しさと大切さを日々実感しています。そして一方で,癌と共に生きていらっしゃる患者さんから,元気と勇気を頂いています。最近では学生時代に学んだ看護学を実践していく中で,看護師としての楽しみや喜びを日々感じています。
（社会福祉法人三井記念病院）

近況報告

大藤 朋子
島根医科大学看護学科2期

卒業後,島根大学で看護師を経験した後,現在は地元の防府市役所の保健師をしています。市町村の保健師にも色々な仕事がありますが,私の配属先は市民の方々の健康増進に努めることが主な柱です。普段生活を送っている環境で,いかに健康を保ち,健やかに暮らすかのお手伝いができる保健師の仕事は,人と関わりあうことが大好きな私にとってやりがいのある仕事だと感じています。現在,防府市でも出生数が一番多い地区を担当しており,育児に対する訴えを聞くことが多く,今後は,多胎の妊婦さんへの参前訪問などシステムを作っていきたいと思っています。
この職業を選択したことで,人との関わりの素晴らしさを学ぶことができています。その「人と関わる素晴らしさ」を学ぶことができた原点である学舎の島根大学を誇りに思い,益々の発展を,卒業生として心から希望しております!
（山口県防府市役所）

総合理工学部同窓会

活動状況

私達の出身学部は改組により,文理学部,理学部そして総合理工学部と変わり,また理学部時代には大学院修士課程が総合理工学部では博士後期課程が設置され,理工系学部としての充実が図られてきました。現在私達の学部の卒業生・修了生は1万人に達しています。

昨年10月に開催された第4回ホームカミングデーのあと,総合理工学部のご協力で「学部長による学部紹介」および「学部見学会」が行われました。その後理事会を開きホームカミングデーへの参加方法等について話しあい,また参加者による懇親会を開き親睦を深めました。

第8回東京支部同窓会総会が昨年10月23日に島根イン青山で開かれました。植田支部会長ら役員の皆さんの熱心な取り組みにより盛会に催され,懇親会には他学部同窓会の東京支部の方々も参加され一段と盛り上がりを見せました。

東京支部同窓会（松井先生講演）

なお総会終了後,東京外国語大学名誉教授の松井信行氏（文理13期化学）による「世界の教室から科学を旅する」の講演が行われました（写真）。氏は世界各国に出かけ科学の面白さを子供たちに教えてこられ,現在も福山市でわくわく親子科学教室を主宰されています。

平成23年度活動予定

- ●平成23年5月
  平成22年度卒業生の動向調査完了（同窓会名簿の基礎資料）
- ●平成23年10月
  総合理工学部同窓会理事会の開催
  総合理工学部同窓会茶話会の開催
  （島根大学ホームカミングデーと同時開催）
- ●平成23年12月～24年3月
  総合理工学部入学予定者への同窓会入会案内
- ●平成24年1月
  平成23年度卒業生の動向調査開始
- ●平成24年2月～3月
  総合理工学部同窓会理事会の開催

（島根大学ホームカミングデー（大学祭期間中）にあわせて,同窓生相互の親睦を深めるために総合理工学部同窓会茶話会を開催します。詳細が決まり次第,総合理工学部同窓会ホームページに載せますので,是非ご参加下さい。）

同窓会HP
http://www.suaa.shimane-u.ac.jp/riko/index.html

同窓生からの近況報告

物理系学科同窓会の活動

安達 伸次
文理・理3期（1955年卒）

島根大学の物理系同窓会は文理学部時代に発足し,それに理学部に改編された卒業生を加え,定期的に総会を開催してまいりました。その後の各学部改編で,総合理工学部に物理系の学科が組み込まれ,物質科学科に物理系をとどめることとなりました。それに応じて,我々の同窓会は「総合理工学部物理系学科同窓会」と称して,卒業生を包含し,運営することとしました。その後は,所帯も大きくなり毎年の総会開催がおぼつかなくなり,大学の関係学科の教官が退官されるのを機会に,大学を育て,多くの学生を世に送り出していただいた先生の労をねぎらい,我々同窓生の親睦をはかるため,記念祝賀会・同窓会総会を開催して,今日に至っております。平成22年は,去る10月,2人の退職される先生を囲み,7名の大学の先生と同窓生20名で和やかな宴を開きました。

近況報告

安部 利美
理学部・情報科学科3期（1995年卒）

私は,1995年に理学部情報科学科を卒業し,理学研究科を経て現在は松江市内の企業で勤務しています。会社ではシステムエンジニアとして,主に自治体向けシステムの開発,運用に携わっています。これまで携わったシステムには小規模なものから大規模なものまでありますが,お客様との打合せを重ね作り上げていったシステムが利用され,役に立っている様子を見ることが大きなやりがいとなっています。
システムエンジニアという職業は一日パソコン,キーボードに向かっている職業と思われたりしますが,実はお客様や同じチームのメンバーとの会話が大切な職業です。大学時代にサークル,麻雀で培ったコミュニケーションが,今でも大いに役立っています。
（株式会社テクノプロジェクト）

生物資源科学部同窓会

活動状況

生物資源科学部同窓会は，主な活動として昨年に引き続き同窓生による公開講座を開催いたしました。

同窓生による日ごろの研究の成果を発表し，同窓生どうしの交流を深める目的で始めた企画は2回目となります。講師として生物資源科学部同窓会会長の寺井敏夫氏と，元農協連常任監事の市場久一氏をお招きして，それぞれ「記紀」のなかの出雲，「先代旧事本記」という題名で講演をいただき出雲古代史について活発に意見交換を行いました。

そのあと開催した懇親会では，お二方を囲み特に「日本古代史」「須佐之男をめぐる人々」等の話に花が咲きました。

その他，今年度は2回の評議員会開催による同窓会の活動の活性化について意見交換を行うとともに，大学主催のホームカミングデーにおいて協賛事業を行いました。

平成23年度活動予定

1. 公開講座の開催
   講　　師　中山　亘氏
   開催時期　平成23年6月
   開催場所　松江テルサ大会議室
2. 同窓会名簿発行の準備
   平成24年発行に向けて業者との契約，準備
3. 同窓会会報の発行
   同窓会活動の充実を図るため同窓生の寄稿文を中心とした会報を発行し情報発信に貢献する。
4. 生物資源科学部同窓会評議員会の開催
   6月及び10月に開催予定

同窓会HP
http://www.suaa.shimane-u.ac.jp/life/index.html

同窓生からの近況報告

島根農科大学林学科第八期生同窓会開催

今岡 康彦
島根農科大学第八期（昭和37年卒）

我々第八期生の卒業は，昭和37年で東京オリンピック開催を目前に，開催地の東京では首都高速道路の建設や地下鉄網の拡充などの工事が盛んに行われ，まさに高度経済成長真只中と言った時期でした。それから約50年近く経過し，ほとんどの者が現役を退き，毎日が日曜日の生活となっていることから，そろそろ同窓会をとの声が多く挙がってきており，松江市およびその周辺に住む者数名が集まり開催を企画しました。

同窓会は，平成21年5月14日(木)ホテル宍道湖で開催しました。これまでの同窓会では，懇親会のみで終わっていましたが，今回は皆さんも日程的に余裕が持てる方が多くなっていることから，趣向を変えて懇親会の翌日に観光旅行を入れることにしました。旅行といっても只の観光地巡りでは芸がない事から旅行のメインに，在学中泊まりがけで実習を行った思い出の地三瓶演習林と林学を学んだ者としては関心の深い，三瓶火山の噴火によって地下に閉じ込められた巨木樹および巨木林を見る事が出来る三瓶自然館，三瓶小豆原埋没林公園を入れました。合わせて世界遺産登録がなされ全国的にも有名になった石見銀山も近くにあることから，見学コースに入れることにしました。

こうした工夫も功を奏したのか林学科第八期生18名中12名の出席となり大変出席率の高い同窓会になりました。

同窓会は，まず最初に記念写真撮影を行い，その後地元民謡踊り愛好グループによる地元民謡踊り(隠岐祝音頭，しげさ節，どじょう掬い，関の五本松，松江舟唄)の披露があり，開会あいさつの後物故者(二名)への黙祷そして乾杯で懇親会にはいりました。今回の同窓会は，翌日の旅行もあることから松江市内在住者も含め全員同ホテルでの宿泊同窓会となり大変盛り上がったものになりました。

翌日の旅行の中核となる島根大学三瓶演習林見学については，島根大学生物資源科学部山下准教授に便宜を図って頂き，現地で2名の担当者の方に演習林の現況や最近の実習の状況など熱心に説明して頂きました。

私たちが三瓶で実習を受けたのは約50年も前の事であり，実習の際使用した宿泊施設や事務所等はすでに無く，その跡地が残っているだけでしたし林相等も相当変わっていましたが，よく目をこらして見ると昔の面影が残っており，学生時代を思い起こし大変懐かしい思いがしたというのが皆さんの意見でした。

ただその中で唯一残っていたのが，入口に立っている石柱の門標でしたので，その前で記念写真を撮りました。帰りに，三瓶演習林の絵葉書集さんべの森からを各人それぞれに頂き，今回の同窓会の良い記念品となりました。

また，三瓶小豆原埋没林公園では地下15M近くまで階段を昇り降りしなければなりませんでしたが，一人の脱落者もなく無事見学することが出来ました。

石見銀山では，石見銀山ガイドの会所属のガイドさんの案内で大森の町並みを見学し，今回の同窓会を終了しました。

旧制松江高等学校同窓会

活動状況

1.会議・集会

全国各地の支部から選出された理事による全国理事会を年1回東京、大阪、松江の3か所のうちから、持ち回りで開催する。平成22年は松江、23年は東京。

2.同窓会員との連絡・情報交換

松江の同窓会本部から、同窓会機関誌『翠松』を年3回発行し、各支部活動の状況、会員の動静、消息、会員の旅行記、会員の文芸作品の発表、あるいは各期クラス会の報告等を掲載する。

3.同窓会本部の活動

22年度には、定例の会議・機関誌の発行などの業務とともに、第14回松江寮歌祭を開催した。全国から30近くの旧制高校・大学予科の卒業生170余名が集まり、各校が誇りとする寮歌を熱唱交換した。

平成23年度活動予定

1. 定例の会議・集会等

同窓会全国理事会を6月中旬に東京で開催する。各支部では、支部の実情の応じて独自の企画で集会その他の行事を行う。

2. 機関誌『翠松』の発行（年3回）

後継者のない旧制松江高校の場合、同窓会員の高齢化に伴う会員数の減少は免れ得ない。しかし、人数減少したりと雖も、個々の会員の松江に抱く郷愁と母校愛は益々強まり、その交換の場としての効果を揚げている。

3. 寮歌祭活動

青春時代への回帰の縁（よすが）となっている旧制高校の寮歌は、各地の寮歌祭となって、全国各地で開催せれている。松江高校が本年度規模を縮小して主催して主催する松江寮歌祭は、『ミニ松江寮歌祭』として開催の予定。

同窓会HP
http://www16.ocn.ne.jp/~tsutsumi/matsue.html

同窓生からの近況報告

カリブ海就航のクルーズ船見聞

福島 邦光
28期文乙（昭和24年修了）

私事乍ら、江戸中期からの家業が松江で造船業でしたので、現在も造船に携わっております。そこで、世界の最大旅客船で1週間カリブ海を航行し、ハイチ・メキシコ等3ヶ所に寄港する企画に参加し、勉強して参りました。

乗船した OASIS of the SEAS の全長は360㍍、全幅62㍍、全高72㍍で16階でした。全幅の62㍍は、船幅42㍍に救助艇（370名定員）が10㍍ずつ突出しているので62㍍になります。これは緊急時に救命艇を降下し易い構造の為でもあります。船幅42㍍のため、パナマ運河航行は出来ません。通行可能の限界は33㍍です。乗客定員は5,400名、乗組員2,165名、総トン数22万5,282t。船の価格は1,400億円。350名定員の飛行機が350～380億円ですので、船は定員比率では廉価な乗物と言えます。クルーズ料金は、比較的廉価で、船外サイド室989$/1名、スイート1,789$/1名で3食付でした。

（㈲福島造船鉄工所会長）

島根大学旧奥谷宿舎で留学生によるトークイベントを開催

島根大学ミュージアムは，島根大学国際交流センターの協力を得て，平成22年9月11日（土）～9月26日（日），企画展示「いろいろな国の昔話を体験しよう」を開催しました。会期中は，島根大学で学んでいるインド，ケニア，ベトナム，中国，韓国の留学生が母国の昔話を語ったり，文化や歴史を紹介したりするトークイベントも開催しました。

留学生によるトークイベントでは，地域の方々や小学生・大学生などが参加し，気軽に色々な質問をしたり，歌を歌ったり，語学講座を開いたりと，大変楽しい，有意義な時間になりました。

「島根大学憲章」第4条には，「アジアをはじめとする諸外国との交流の推進 」がうたわれています。また，会場となった島根大学旧奥谷宿舎は，かつて旧制松江高校や島根大学の外国人教師が暮らし，国際交流の舞台になった場所です。このような観点からも，今回のような「草の根国際交流」ができたことは，本学にとって，また地域の方々や留学生にとって大変意義深いことでした。

正門入って左手の本部事務局棟横に設置されていますので，
多くの皆さまにご覧いただければ幸いです。

旧制松江高等学校寮歌「青春の歌」石碑が綺麗になりました

本学構内に設置されている旧制松高の記念碑周辺が整備され，綺麗になりました。石碑前面のみならず裏面も楽しんでいただけるよう，裏側に回り易いように工夫した飛び石，そして，美しく剪定した庭木類，また，枯山水風の池は，防草シートを設置したうえに洗浄した石を設置し直すなど，10月9日に開催されるホームカミングデーに備えて，気配りの行きとどいた整備となりました。また，ISO14001を取得するなど環境関連事業に力を入れる本学にふさわしく，環境に優しい真砂土を使用するなど，環境面からも配慮されています。

「サイエンス・アカデミー　2010年度スペシャルレクチャー」が開催されました！

教育学部附属学校園「サイエンス・アカデミー」が12月11日（土）に開催されました。

「サイエンス・アカデミー」は平成20年度より開講した親子参加型科学講座で，今回はスペシャルレクチャーとして開催されました。

テーマを「宇宙服の科学」とし，宇宙航空研究開発機構（JAXA）で宇宙服の開発に携わっておられる開発員の 増田 勇野 氏を講師にお招きし，同氏の研究，宇宙の科学及び先端技術についてわかりやすくお話いただきました。

子ども達からは「おもしろかった。宇宙に行ってみたいと思った。」「宇宙技術がわたしたちの生活とも関わりがあることに驚きました。」という感想が聞かれ，また，参加した保護者からは「JAXAの方のお話がうまく，子ども達が集中して取り組めました。」「家族で同じ講座に参加することで，家庭の中でも宇宙や科学について話すきっかけとなり参加して良かった。」という声が聞かれました。

実際に宇宙服を手に取りながら取り組むことで，非日常ととらえがちな宇宙技術の開発・研究が，日常生活とも関わりがあることを学びました。

出雲大社から医学部附属病院へ檜皮炭の寄贈がありました。

60年に一度の遷宮「平成の大遷宮」中の出雲大社から医学部附属病院へ，摂社の一つ，「天前社（あまさきのやしろ）」の屋根を覆っていた檜皮（ひわだ）を加工した炭3,130袋の寄贈がありました。

12月14日に出雲大社で山本廣基学長と小林祥泰病院長が，千家尊祐宮司から目録及び出雲大社の神紋が描かれた檜皮炭袋を受取り，感謝状を贈呈しました。

出雲大社は縁結びの神様として有名な大国主命が祭られていますが，神話において白ウサギを助けた「医薬の神」でもあります。また，この度古い屋根を檜皮炭として寄贈いただいた本殿東隣の天前社には大やけどを負った大国主命の治療と看護を行ったとされる「看護の神」・蛤貝比売命（きさがいひめのみこと）と蛤貝比売命（うむがいひめみこと）が祭られています。

再開発中の医学部附属病院では，この檜皮炭を，防カビや防臭，調湿剤として拝領し，平成23年6月完成予定の新病棟の緩和ケア病室や女性専用病室など合計34病室の天井裏に敷き詰め，炭の持つ調湿作用等に加えて各病室に出雲大社の医薬と看護の神のご加護があることを祈念して，この貴重な檜皮炭を使わせていただきます。

なお，平成23年度より，松江キャンパス及び出雲キャンパスにおいて，より多くの皆さまにご覧いただけるように展示いたします。

贈呈式の様子

神紋入りの檜皮炭袋

新病棟病室天井への敷設作業

左手前が「天前社」・右奥は本殿

女性のための「防犯ハンドブック」が完成 県警本部長を表敬訪問，ハンドブックを披露

1月19日，女性の防犯意識を高めるために作成された「防犯ハンドブック」を披露するため，作成に携わった，松江地区学生ボランティアネットワークで活動する島根大学生が，高瀬隆之島根県警本部長を表敬訪問し，完成したハンドブックを披露しました。

携帯性に優れた「ミウラ折り」を採用し，豊富な情報が女性が読みやすいよう，分かりやすくまとめられたハンドブックの内容に，高瀬本部長も大きな関心を示されました。

披露後は女性の防犯講座DVDの鑑賞しながら，活発な意見交換もおこなわれました。

「島根大学環境報告書2010」は 第14回環境報告書賞の公共部門賞を受賞しました

この賞は，東洋経済新報社及びグリーンポーティングフォーラムが共催し，環境報告書の普及とCSR（企業の社会的責任）の向上を願い，創設された制度です。この中でも，公共部門賞は特別企画として第10回から開始され，現在は常設賞となっています。

今回の受賞は，「ほぼ全ての取り組みについて，PDCAの観点から明確に開示している点」が高く評価されたことによるものです。本年度から取り入れた掲載方法でしたが，良い評価を得たことで，今後への励みとなりました。

なお，2月24日に東京都内で表彰式があり，松江キャンパス環境管理責任者である宅和　暁男理事が代表として出席し，表彰状及び副賞を受賞しました。

表彰状，副賞のトロフィーと共に記念撮影

本学の環境報告書は，公表当初より，Webでのみ掲載しております。引き続き，より良い環境報告書による公表を目指していきますので，是非この機会に，一度ご覧ください。

■島根大学環境報告書Web掲載場所
http://www.shimane-u.ac.jp/iso14001/index.php?option=com_content&task=view&id=4&Itemid=5